さんないまるやま　つうしん

三内丸山通信

第42号
平成19年3月30日
青森県教育庁文化財保護課

三内丸山遺跡対策室
〒030－8540　青森市新町２丁目３－１
ＴＥＬ（017）734－9924
ＦＡＸ（017）734－8280
三内丸山遺跡展示室
〒038－0031　青森市三内字丸山293
ＴＥＬ（017）781－6078
ＦＡＸ（017）781－6103
URL:http://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/

三内丸山遺跡を探究する 成果まとまる

平成18年度 特別研究推進事業

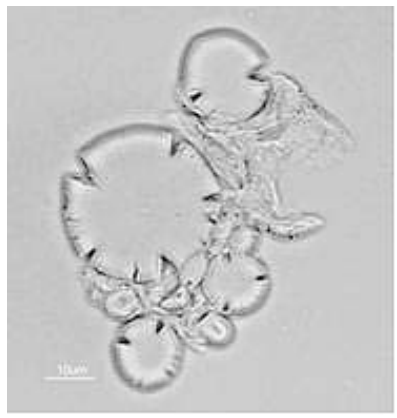
3月17日、縄文時遊館を会場に平成18年度特別史跡三内丸山遺跡報告会を開催し、今年度の発掘調査報告、特別研究成果報告を行いました。

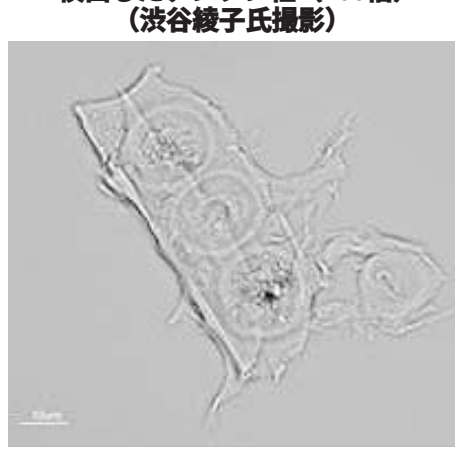
『三内丸山遺跡北の谷出土植物遺体による縄文環境と植物利用の解析』

石川隆二さん（弘前大学農学生命科学部助教授）を研究代表者とするグループは北の谷から出土した植物種子の研究、特にブドウ属に着目してDNA分析を行いました。放射性炭素による年代測定結果とあわせ、時代とともに種子サイズが大きくなった可能性があることがわかりました。他にニワトコやヤマグワも同様の傾向が認められ、管理栽培があった可能性が指摘されました。

『残存デンプン分析からみた三内丸山遺跡の植物食―加工・利用技術の発展と展開―』

渋谷綾子氏（総合研究大学院大学博士課程）は、出土した石皿に残るデンプンの研究を行いました。石皿は木の実やヤマノイモ等の根茎類をつぶしたり、粉にしたりするのに使われた道具と考えられています。実際に石皿に残っているデンプン粒を直接取り出して分析する試みは日本でも始まったばかりで、三内丸山遺跡でも初めての試みです。取り出したデンプン粒を顕微鏡で調べたところ、12～13種類の形に分けられること、ヤマノイモ・サトイモ・ハシバミのデンプンではないことがわかり、27種類の植物が候補として示されました。


検出したデンプン粒（400倍）
（渋谷綾子氏撮影）



企画展 三内丸山遺跡 北西部の謎 ―2006年調査最新情報展― 開催中

今年度発掘調査を行った遺跡北西部は、時代によって土地の使われ方が違っていました。

パネルや出土品を使って、わかりやすく解説しています

この場所は最初、土器などを捨てる場所（捨て場）でしたが、その後、掘立柱建物が何度も建て替えられていました。最後には竪穴住居がつくられました。

しかし、なぜ土地の使い方が変化したのかは未だ謎のままです。

企画展では、今年度やこれまでの調査成果を紹介しながら、この謎について考えてみたいと思います。

開催期間は6月24日(日)までです。ぜひ、ご観覧下さい。

特別企画展「あおもり 縄文まほろば展」in 大阪

大好評でした！

「あおもり縄文まほろば展」―縄文遺跡群の世界文化遺産登録を目指して―を開催しました。

青森県に所在する縄文遺跡の価値と魅力について、全国に情報発信するとともに、「青森県の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録を目指す取組みについて紹介する「あおもり縄文まほろば展」を、2月11日から18日までの期間で、大阪市の大阪歴史博物館において開催しました。

三内丸山遺跡をはじめ、県内の遺跡から出土した、縄文時代の重要な遺物、約700点を展示した特別展示室には、連日、関西方面を中心に多くの方々が訪れ、熱心に見学していました。

テープカットで、いよいよ開催です

初日には、シンポジウムも開催し、三内丸山遺跡対策室の岡田室長が「青森県の縄文遺跡群の魅力と価値」と題して、また、俳優の刈谷俊介氏が「縄文はおもしろい」と題して、それぞれ講演しました。続くパネルディスカッションでは、岡村道雄氏（奈良文化財研究所企画調整部長）、水ノ江和同氏（文化庁記念物課文化財調査官）、三内丸山遺跡対策室岡田室長の3人がパネリストとなり、「縄文列島東西南北」をテーマに、縄文文化についての最新の研究成果の紹介や魅力、価値について熱く語り合いました。会場となった講堂は超満員。参加者は縄文遺跡や縄文文化に対し、高い関心を寄せていました。

シンポジウムの会場は超満員でした

遺跡の草花 早くもフキノトウが…

遺跡には早くもフキノトウが芽吹き始めています。この冬は雪が少なく、いつもの年よりも早く地上に姿を現しそうです。

遺跡内では北の谷や南の谷に群生しており、これから初夏にかけて、立派な（？）姿のフキに成長します。

融けた雪の間からひょっこりと顔を覗かせるフキノトウをみると、春の訪れはすぐそこに来ているようでホッとします。おそらく縄文時代の人々もフキノトウに春を感じ、心をウキウキさせたことでしょう。

三内丸山遺跡の春はすぐそこです

遺跡のご案内（4月・5月）

遺跡の開園時間

9時～17時
（ただし、4／28（土）～5／6（日）は、18時まで）

ボランティアガイド定時案内

1回目は9時15分から
その後は10時から1時間ごと、最終は16時から

交通手段

青森市営バス
ＪＲ青森駅から「免許センター行き」、三内丸山遺跡前で下車

お答えします さんまるのギモン

三内丸山遺跡に関する素朴な疑問に答えるこのコーナー。今回のギモンはこれ！

『冬の間、食べ物はどうしていたのですか？』

―冬の間でも、食料が取れそうなところは海かなぁ。

「三内丸山遺跡は陸奥湾に近いので、冬も魚を獲っていました。それはマダラの骨が見つかっていることからわかります。」

―う～ん。動物は？

「ノウサギとかを獲っていたかもしれませんが、それだけではこころもとないでしょうね。」

―植物はどうしたの？

「縄文人が食べていた食料の多くは植物性の食料です。しかし、冬には新鮮な植物性の食料は手に入れることはできません。秋に蓄えた食料を少しずつ利用していたことが考えられます。

遺跡からは地面に穴を掘った『貯蔵穴』が見つかっています。木の実や加工した食料などを保存していたものと考えられます。」

三内丸山遺跡の貯蔵穴

―なるほど。地中の温度はあまり変化しないから、天然の冷蔵庫みたいなものですね。